



国際交流・協力に関する情報誌

# いちゃり場通信

No. 74 December, 2018



## 目次

- 2 「避難所運営訓練」in 名護市
- 3 災害時外国人支援センター養成講座 in 石垣市
- 5 オンライン避難者登録フォーム
- 6 第58回国際理解・国際協力のための中学生の作文コンクール
- 8 第65回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール
- 9 ウチナーンチュ子弟等留学生文化体験研修
- 10 財団主催イベント情報
- 11 沖縄県内国際交流団体イベント情報



(公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団

Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-2-16

TEL: 098-942-9215 FAX: 098-942-9220 HP: <http://kokusai.oihf.or.jp>



## 「避難所運営訓練」を実施

11月5日の津波防災の日に名護市民会館において 避難所運営訓練を実施しました。（共催：名護市 後援：名護市国際交流協会）沖縄本島近海で大地震が発生し、大津波警報が発令された条件の中、財団職員が「多言語支援センター」を開設し情報収集や多言語発信を行うと同時に、財団で育成している「災害時外国人支援センター」が中心となり、避難所巡回チームが「避難所運営」の手順を確認し地域住民への対応するなど、訓練を通して様々なシナリオに対処する実働訓練となりました。訓練では並行して、名護市消防等の協力を得ながら「災害時お役立ち講座」を行い、過去に起きた災害時の避難所がどのような様子だったのか、また健全に避難所を運営するためには、どのようなことが必要かなどが紹介されました。

訓練では初めて参加するセンターも多く、情報発信の方法や情報掲示の工夫、また連携面で課題が浮かび上がった一方、養成講座で学んだことを活かし、一人一人が与えられた役割に徹し取り組むことができました。非常食の炊き出し訓練の後、午後には（一財）熊本市国際交流振興事業団の勝谷事務局次長により、「できた点」や「課題となった点」など講評をいただき、多言語支援センターだけではなく、避難所運営に関するとても貴重なヒントを得ることができました。

平日にも関わらず、地域住民や関係者、センターなど100名以上の皆様にご参加いただきました。引き続き、島嶼県沖縄の地域防災力の向上と外国人支援体制の構築に向けて努めて参りたいと思います。



多言語支援センターの開設



名護市消防による講座



訓練後の振り返り



避難所・訓練でのセンターの様子

## 石垣市で災害時外国人支援センター養成講座を実施

災害時に外国人を支援できる人材の育成を目指す「災害時外国人支援センター養成講座」を11月7日（水）から9日（金）の3日間、石垣市立図書館で実施しました。石垣市内や沖縄本島から13名が参加し、被災状況下での現状確認やライフラインに関する情報収集・発信方法、また災害時に役立つ「やさしい日本語」について学ぶなど、外国人の孤立を防ぐためのサポートスキルを深めました。

本講座は、災害時にことばや文化の違いによって孤立しがちな外国人を支援することを目的に実施しており、石垣市内での実施は今回で3回目になります。講座での「避難所運営ゲーム（HUG）」では、小学校の体育館に見立てた模造紙の中で、災害時の初動の避難所運営をシミュレーションする訓練を行いました。分割みに避難者が増え、「押しかけボランティア」や「マスコミへの取材対応」、特定の宗教を信仰する人への配慮など、決断が求められるシチュエーションが次々と発生する混乱状況の中、受講者らは対応に追われました。

今回の講座により、登録者数が県内で143名（本島：106名 石垣市：37名）となりました。次年度は、宮古島市でも講座の実施を企画しており、今後さらにセンターの数を増やしていくことで、全県的な外国人支援体制を構築します。



講座の様子

**1 新聞で取り上げられた記事を紹介します！**

**八重山日報 THE YAEGAMA NIPPO 第139号**

**災害時の「リアル」語る**

**石垣市 防災講演で根来、阿部氏**

**災害時の外国人支援**

**サポーター講座を開催**

**1 避難所運営訓練  
(11月5日実施)**

**2 「2018年度石垣市防災講演会(主催：石垣市)」で根来国際交流課長が講演**

**3 災害時外国人支援  
サポーター養成講座  
@石垣市  
(11月7日～9日)**

## オンライン避難者登録フォームを7言語に拡大

災害時に被災する外国人を支援するため、避難者登録カードに代わるオンラインフォームを制作し7言語で対応できるよう改良しました。このフォームは財団が大規模災害時に開設する「多言語支援センター」が管理し、我々で養成している災害時外国人支援サポーターや行政職員等が避難所巡回を行う際、外国人の避難者情報をスマートフォン等の端末でもって、外国人が被災者が直面している情報を収集し、生活支援や帰国支援など、効率的に関係機関へ繋げることで外国人支援に役立てることを目的としています。市町村職員やサポーターを対象としたセミナーを実施し、本フォームの活用が浸透するよう、取り組んで参ります。

	<b>外国人被災者情報(市町村・避難所・国籍別)</b>	情報提供：(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団
サポーターID/記入者 TaroOkinawa	市町村 那覇市	避難場所 那覇商業高校
ID 72	登録番号 72-001	タイムスタンプ 2017/12/19 13:07:00
代表 ▼ 本人	代理者との関係 本人	モードルネーム Okinawa
日本国内の住所 那覇市 宮大平 2丁目3番9号 マンションプラチナキャッスル 605号	年齢 20	性別 男
Eメール taroo.oooooooooooo@okinawa.totochuu.co.jp	国籍 U.S.A	在留カード番号 パスポート番号 350000010xxxxx
電話番号 100000001000015	日本語力 ○	日本語 English
宗教や精神上の信条 なま物と、海の魚介類全般。ゴボウ等の根菜	英語 ○	
ケガや病気の状態 クガキしている、熱がある、めまいがする、吐き気がする、食欲がない、頭から血がでている	中国語 ○	
妊娠や出産の状況 妊娠している、心臓病がある、糖尿病がある、ぜんそく、発育不良やうつ病	韓国語 ○	
アレルギー情報 牛、豚、鶏、牛乳、そば、豚肉、羊、魚、貝、エビ、カニ、お酒、小麦粉、卵、桜花粉	朝鮮語 ○	
行政機関等への情報連携の担当者 ○	新規登録	登録登録

**□市町村別/避難所国籍別に情報をソートし、関係機関への情報提供が可能**

**□帰国支援(外国人観光客)や生活支援(在住外国人)など次へのアクションに繋げることができる**

対応言語を7言語へ！

出力される帳票(サンプル)

3

## 「国際理解・国際協力」に関する作文・主張コンクールで県代表中学生と高校生が奮闘！

外務省と(公財)国際連合協会が主催する「第58回国際理解・国際協力のための中学生の作文コンクール」において、沖縄県の代表として出品された2作品の内、名護市立羽地中学校2年の平良綾夏さんの作品が、見事銀賞に輝きました。全国から2,752作品の応募があり、予選を通過した53作品の中での受賞です。

また、去る10月22日(月)には「第65回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール中央大会」が国連大学(東京都)で開催され、辺土名高等学校2年の石井千啓さんが沖縄県代表として参加しました。自身がマンマーに派遣され、発展途上国の現状を目の当たりにし、その中で国連の重要性を説き、将来は「教師」として発展途上国の現状を多くの子ども達に発信していきたいと堂々と発表しました。残念ながら全国大会での入賞は逃しましたが、健闘を称えたいと思います。

沖縄県代表作品を本誌の6ページから8ページにかけてご紹介します！

# 第58回 国際理解・国際協力のための 中学生の作文コンクール 沖縄県地方代表作品



「日本国内外で困っている人々のために、  
自分には何ができるか。」

名護市立羽地中学校 3年 平良綾夏

「本当の幸せって何だろう？」

昨年までの私はいじめられてばかりで「自分は不幸だ。生きている価値もない…」そう思い込んでいました。そんな学校生活を過ごしているうちに、ほんのわずかな幸せすら感じられなくなっていました。

そんな私に、変わるべききっかけを与えてくれたのが、ある報道番組です。その番組をきっかけに、私の中に大きな変化が起きました。

それは、学校に行きたくても行けない世界中の子供たちの様子を伝える番組でした。学校に行けないだけでなく、家族と離れて働いているたくさんの子供達の姿を見た時、私は衝撃を受けました。私と同じ年、あるいは年下の子供達が、幼い時から働いているというのに、私は環境が整った学校に当たり前のように通っている。勉強することも、友達と会話することもできている。それは実は、すごく恵まれた日常であることに気がつきました。

海を越えた国々では、幼い子が兄弟の世話をしたり、遠くまで水汲みに出かけたりしていました。工場や農園で、家族と離れて暮らしている子達もたくさんいました。全部、とても大変な仕事に見えました。でも、私がその番組で一番驚いたのは、子供達がそんな大変な仕事をしているということではなく、そんな彼らの表情から、ずっと笑顔が消えなかつたということです。その笑顔をみていて「人は大変なことがあるから笑えないんじゃなく、前を向いて生きていなければ笑えないんだ」、そう思えたのです。私も、いや、恵まれた立場にいる私こそ、いろんなことはあるけれど、前を向いて生きたいと思えました。貧しい国で学校にも行けずに働いている子供達は不幸です。でもそれは、その環境が不幸なのであって、あの子達は自分から不幸になろうとはしていませんでした。家族のため前向きに生きていました。そんな姿を見て、私も変わりたいと思いました。自分のことも、そしてこの貧しい国で頑張っている子供達のためにも、何かできることがないか考えるようになりました。そんなとき、社会科の授業で「国際連合」について学んだことを思い出しました。改めて詳しく知るために調べてみました。国連は、様々な関係機関を通して、貧困に関する問題だけでなく、社会問題や環境問題にも関わっていることがわかりました。私は調べていくほど、国連の果たしている役割の重要性を痛感しました。それと同時に、こんなに大切な役割を担っている国連の活動を、なぜ私は今までほとんど気にすることがなかったのか、そこにも疑問を持ちました。もちろん私が勉強不足だったのですが、もっと国連の行っている活動や、存在意義を伝える機会を増やす必要性があるのではないかと感じました。そして、これは私の将来の夢とつながっていくことなんじゃないかとも思うようになりました。

私の将来の夢はアナウンサーになることです。その立場で、様々な番組の制作に関わっていくことです。アナウンサーは放送を通じて、多くの人たちに影響を与えられる仕事だと思います。私が多くのことを勉強し、確かな知識を持って番組の制作に携わっていくようになれば、貧困問題、それに取り組む国連の活動も、広く報道していくことができるかもしれません。影響力のあるメディアからの発信は、多くの人に、国連が取り組んでいる問題の重要性を知ってもらうことに役立つはずです。今、私個人のアナウンサーになるという夢は、世界中の子供達の幸せを実現することにもつながっています。そう思ったら、困難な道も笑顔で頑張れそうな気になります。あの番組で見た子供達の笑顔に私は今支えられていると感じています。だからこそ、いつかあの子たちの幸せを支える側になりたい。「本当の幸せってなんだろう」、そう悩んでいた以前の私。でも、今の私は、悩んでなんかいない。誰かのために頑張れる今こそが「本当に幸せ」なんじゃないか。今、私はそう思う。

平良綾夏さんの作品は、  
**第58回 国際理解・国際協力のための全国中学作文コンテスト**  
**中央大会銀賞**に選ばされました！おめでとうございます！



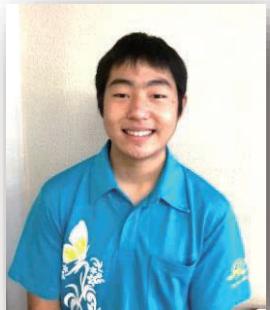
「国と国が仲良くするために、自分には何ができるか。」

名護市立羽地中学校 3年 宮城 あきら

You should be the change that you want to see in the world. (世界に変化を望むなら、君がその変化になれ。) 偉大なマハトマ・ガンジーの言葉です。

この夏、私は短期の海外留学の機会を得て3週間ハワイにいきました。沖縄に生まれ育った私を受け入れてくれたのは、ハワイの日系人の方々でした。この3週間の暮らしの中で、実はそういった日系人の方々が、英語文化やハワイの文化だけでなく、日本の伝統文化を、今でも大切にしていることを知りました。例えばお盆には現地の人と一緒に灯籠流しを行いました。異国に渡っても、先祖から受け継いできたものを大切にしていることに驚きました。ただ、その灯籠流しを行っているときに、同じ港のすぐ近くで、騒がしく船の片付けをしている現地の人がいて、つい「もう少し、気を遣ってくれればいいのに、相手の文化を尊重できない人がいるから国際理解や国際交流が進まないんだよ…」、そんな風に感じました。帰国してから、この話を先生にしたら、「問題なのはその人だと思う？」と聞かれました。私は質問の意図がよくわかりませんでした。「港で船の片付けをしていた人たちから見たら、また違った見方にならない？そこをよく考えたら、もっと深い学びがあるかもね」と言われました。見方を変えてみる。相手の立場で考えてみる…。私はもう一度、あの場面を振り返ってみました。今度は港で作業していた人たちの視点で。立場が変われば見え方が変わる。あのとき、あの場所で作業していた人たちにとっては、それは日常の、ごく当たり前の仕事で、そこに割って入ってきたのは私たちの方だったかもしれない。相手にとっては、むしろ遠慮してほしいのは私たちの方だったかもしれない。そして何よりも、私はあのとき、灯籠流しという文化を大切にしていることは素晴らしい、だからもっと尊重してほしいと思いながら、同時に相手の仕事や生活を尊重していかなければいけないと思いました。相手を尊重しない、下に見る行為、それをすることで自分が上に立つ関係。それは悲しい関係です。なぜなら、そうすることで相手より上にたたないように見えて、実は相手を下に見ただけで私自身の立ち位置はかわらないまま。それは相手を尊重していないだけではなく、自分たちの文化の良さも、本当の意味では理解しようとしていることになってしまします。そんな関係を続けていけば、相手も自分たちを認めなくなる。ハワイに行ってみて、互いの文化に様々な違いがあることがわかりました。だからこそ、互いの違いを認め合うことや、互いに高め合う関係を築く大切さにも気がつきました。異文化理解とは自分の文化を捨て相手に同化することや相手に同化を求めるではなく、違いを認め合い、その違いを尊重し合うことなどと気づきました。そこから始めなければ、言語も文化も違うお互いが、お互いの国同士が、仲良くしていくことなんてできることに気がつきました。冒頭のガンジーの言葉は、世界を変えたいと思うなら、まずは自分から変えていく大切さを語っています。世界の変化は、自分の変化から始まる。私はこの言葉を信じます。だからまずはここから、私から、私のできる一歩から、私の今できる全てから、始めます。そしてその先、私はいつか国連という舞台で働きたい。世界中の立場や文化、言葉を超えて心の交流を、国際理解を、平和を、今も、このさきも目指して活動していく国連の中で、意味ある役割をいつの日か私自身が担えるよう、今日を生きる。明日も、ずっと、その気持で生きていく。世界の一員である私の変化は、きっと世界にも繋がっている。国と国が仲良くなる、そんな大きな命題もきっと私の今の生き方と繋がっている。私はそう信じて進む。

# 第65回 国際理解・国際協力のための 高校生の主張コンクール 沖縄県代表作品



## 国連の重要性を私達はどのように理解すべきか

沖縄県立辺土名高等学校2年 石井千啓

「国連の重要性を私達はどのように理解すべきか。」私にとって国連の存在は、発展途上国に先進国が支援してあげる機関。そういう認識のもと「国連」は私にとって別世界の無関係のような存在でした。

そんなとき学校で「発展途上国」のヤンマーに行ってみないと、先生に声をかけられました。好奇心旺盛な私は「やってみよう」と、すごく軽い気持ちで「ある事業」に応募しました。反面、国際協力なんて何をしているのかも知らない上、行くことに対して不安や怖くもあり、気持ちが乗っていなかったのです。しかし参加すれば何かしら得るものはあるはずだと、ある意味楽観的な気持ちもありました。

ところが、ヤンマーに入って初日、私の想像を絶する光景が目の前にありました。タバワ老人ホームという一つの町のような寺院でのことです。ここでは、子供に見捨てられた老人や行き場のない人が無償で過ごしています。また、多くの国からの支援のもと、医療機関の設備も整えられていると聞きました。しかし、私の想像とは真逆で、寝る場は個室ではなく、当然仕切りもありません。多くの人が、堅いマットに雑魚寝をしている状態で、食事も清潔感があるとは言いがたい鍋で作られ、周りで虫も飛び交っていました。トイレでは、異臭がし、水の設備も十分ではない様子でした。道路はでこぼこで、糞尿が目に付く状態。この施設では病気で亡くなってしまう人も多くいると聞き、私はこの状態では仕方ないと思うほどでした。病院があっても、やはり不衛生、さらに薬や医療器具も足りない状況で、医者も常時いるわけではありません。「これがヤンマー」「これが発展途上国なのか」「これが世界の中の一国なのか」自分が普通に暮らしている傍らで、こんなひどい環境の中で暮らしている人が多いという現実を知り、「知りたくなかった」「知らなければ、何も感じなかつたのに」とやり切れない気持ちになりました。同情よりもむしろ、ヤンマーの人に対して警戒心も生まれました。その時のヤンマーに対する私の目は冷ややかでとても冷たかったように思います。

そんな中で私たちはこの事業の目的のひとつである沖縄紹介を行いました。それまでの印象から私は「嫌がられるのではないか」、きっと「楽しんでもらえないだろう」と考えていました。が、予期していた反応とは異なり、どの人たちも、すごく喜んでくれました。老人ホームの方々と一緒にカチャーシーを踊ると、立つことのできない人も手をあげて一緒に踊ってくれました。私たちが紹介を始めてから終わるまでずっと笑顔で聞いてくれ、一緒に楽しい時間を共有する事ができました。

最後には泣いてくれる人、握手してくれる人、寂しそうにする人もいて、言葉がわからなくても心が通じ合っているように感じました。

私は最初の印象だけでヤンマーの人がどんな人なのかを決めつけてしまった自分が情けなくなりました。ヤンマーという発展途上国を訪れ、偏見の目で周りを見ていた私自身、現地での交流を通して印象に囚われた自分の至らなさを痛感しました。

私はヤンマーを訪れたことを幸運に感じます。これまでの私との大きな違いはヤンマーの国の発展を願わずにはいられなくなつたことです。ヤンマーの言葉に自然と反応してしまうのです。これは、訪れたことで起こる化学反応のようなもので、教科書で得る知識や発展途上国を理解する知識とは異なるものです。と同時に今「ヤンマー」のためにできることを模索し、共に訪れた仲間との募金活動を企画しています。

このように「国際協力」に無関心だった私が、「JICA」の企画に参加し、人と人とのつながりを実感し、国と国のつながりを意識しました。国際協力とは発展途上国に何かをしてあげることも大切ですが、ともに同じ仲間であることを認識し、その幸せを願い協力していくことではないでしょうか。その先駆者としての国連。私はヤンマーを訪れることでその重要性を理解しました。さらに、夢である「教師」の立場で、子供たちと共に暮らす「宇宙船地球号」の乗組員として、互いに支えあい、平和を築くことの大切さを伝える発信者になりたいという思いが新たに加わりました。

近い将来「発信者」にとどまらず、国際的に貢献できる自分を夢見て、今わたしにできることから、はじめていきます。

## 【県委託事業】ウチナーンチュ子弟等留学生 文化体験研修

去る11月16日（金）に、那覇市内にてウチナーンチュ子弟等留学生の「文化体験研修」を実施しました。この研修は、本県の地域住民の生活や伝統的な文化について知ること、実際に地域住民との交流をしながら伝統的な文化について理解を深めることを目的としています。

午前中は、那覇市で行われている「那覇まちま~い」に参加し、ボランティアガイドの方に、平和通りをはじめ第一牧志公設市場の周辺を案内していただき、沖縄の食や生活の文化について学びました。市場や商店街には留学生の皆さんのが見たことない食べ物や沖縄の郷土料理などを見て回ったり、実際に食べたりして沖縄の食文化を樂しく学びました。また、現在の商店街や市場、建物の様子や、過去の写真を比較し、那覇の街の歴史や成り立ちについても学ぶ事ができました。留学生は沖縄に来て半年以上立ちますが、知らないことがまだまだ多くあり、新しい発見に驚いた様子でした。

午後は、那覇市伝統工芸館にて、琉球漆器の絵付けの技法の一つである「堆錦」という作業を体験しました。うるしを堆錦刀でハイビスカスの形に切り抜く作業では、細かい作業に苦戦しながらも先生や他の留学生と協力し合い、楽しく作業をしました。留学生の皆さんには堆錦をするのは初めてと言っていましたが、それぞれの個性を活かしながら上手にコースターを完成させていました。

今回の研修で得た経験や知識をこれからの生活に活かしてもらえたならと思います。



綺麗なハイビスカス柄のコースターができました！

# 2019年1月～3月 財団主催イベント情報

## ① 外国人による日本語弁論大会

**第36回 外国人による日本語弁論大会**  
The 36th Japanese Speech Contest for Foreigners

日時 2019年2月9日(土) Saturday, February 9th, 2019 開場 open: 12:30 開演 Start: 13:00  
場所 パレット市民劇場 原町久茂地1-1-1パレットくもじ9F  
主催：(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団 Host: Okinawa International Exchange and Human Resources Development Foundation  
TEL: 098-942-9215 FAX: 098-942-9220 http://kokusai.oihf.or.jp  
入場無料 Admission Free

## ② English and Cross-Culture Seminar

**★Participants Wanted★ English and Cross-Culture Seminar**

目的 自分の考えを英語や日本語で論理的に発信できる人材の育成を目的としたインプット型研修を行います。具体的にはOIST研究者やスタッフと英語でのコミュニケーションを図る他、英語によるディスカッションを行います。研修の後半は21世紀型スキルとされている「批判的思考力」を高める為のグループワークを行い、物事を相手に論理的に伝えるための基礎を学びます。

実施日・場所 2019年1月26日(土) 9:30～16:00 沖縄科学技術大学院大学(恩納村)  
参加無料 参加方法 1月10日(木)応募期間  
お問い合わせ 1月10日(木)応募方法  
参加対象者 ★終日セミナーに参加できる高校生から大学生でワークショップに積極的に参加できる方  
募集定員：20名

お問い合わせ : (公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団  
国際交流課 事務課 (かぶつら)・長瀬 (ながはま)  
TEL: 098-942-9215 Email: kokusai.oihf.or.jp  
http://kokusai.oihf.or.jp Facebook: www.facebook.com/oihf60



**外国人による日本語弁論大会  
弁士募集 Call for Speakers**  
Japanese Speech Contest for Foreigners

目的 在住外国人に、国際交流・国際親善・相互理解・日本や沖縄の文化について日本語で発表する機会を提供し、異文化理解と共生の精神及び国際社会のあり方をともに考え方、相互友好の一助とします。今回も、多くの豪華賞品を準備しています。たくさんのご応募、お待ちしています！

応募締切 2019年1月10日(木) 17時 必着  
本大会 フィナリストに選ばれた方は、下記日程の本大会に参加することができます。  
日時：2019年2月9日(土) 13:00～  
場所：パレット市民劇場 (那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ9F)

お問い合わせ・応募書類提出先 (応募書類は、当財團HPをご確認下さい)  
(公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団 国際交流課  
〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4丁目2番16号  
TEL: 098-942-9215 FAX: 098-942-9220 HP: http://kokusai.oihf.or.jp

## お問い合わせ

沖縄県国際交流・人材育成財団  
国際交流課  
Tel: 098-942-9215

# 沖縄県内国際交流団体 イベント情報 浦添市国際交流協会

## ① あそんでまなぼうキッズ英語

日時 2019年2月16日(土) 13:00～14:30  
場所 浦添市ハーモニーセンター  
内容 紙芝居やクラフト、歌や踊りなど、遊びながら生きた英語に触れてグローバルキッズになろう！  
参加費 500円 ※当協会会員登録必須  
※要予約  
対象 幼稚園～小学3年生



## ② Easy語学体験と交流(英語編)

日時 2019年2月1日(金)・8日(金)・15日(金)  
※予定 19:30～21:00  
場所 1・2回目 浦添市ハーモニーセンター  
3回目 JICA沖縄センター体育館  
内容 簡単な英語を1・2回目で学び、3回目の「ふれあい講座」でJICA研修員と交流して、学んだ英語でコミュニケーションにトライ！  
参加費 1,500円 ※当協会会員登録必須  
※要予約



## ③ 世界のキッチン！食べて学んでクッキング！(ロシア編)

日時 2019年2月3日(日) 10:00～13:00  
場所 浦添市立中央公民館  
内容 家庭料理やおもてなし料理を通して、外国の食文化に触れて、作った料理を食べながら参加者・外国人と交流ができます。  
参加費 大人2,000円 学生1,500円  
※当協会会員登録必須  
※要予約



## ④ New Year Party 2019

**日時** 2019年1月20日（日）  
14:00～17:00※予定  
**場所** てだこホール市民交流室  
**内容** 会員親睦、JICA研修員を招いて交流、多国籍ブース、パフォーマンス、茶道、餅つき体験などを楽しめます。  
**参加費** 会員500円 一般700円  
子ども一律300円  
※要予約  
※定員150名（定員になり次第締め切り）  
詳しくはお問合せ下さい。



## ⑤ ふれあい講座 ~中近東編~

**日時** 2019年2月15日（金）  
19:00～20:30  
**場所** JICA沖縄センター体育館  
**内容** JICA研修員とふれ合い、話して、歌って、踊って、見て聞いて沖縄にいながら世界を体感する  
**参加費** 無料



浦添市国際交流協会  
お問い合わせ先

TEL:098-879-3010  
MAIL : [okinawa.uira@gmail.com](mailto:okinawa.uira@gmail.com)  
WEB : <https://okinawauira.wixsite.com/uira>

## 賛助会員募集！

公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団（略称「OIHF」）は、本県の多文化共生社会の推進に寄与し、振興発展を担う人材育成事業や、国際性豊かな活力ある沖縄づくりを目指し、国際交流・協力事業を推進しております。当財団の趣旨や活動に賛同し、活動を支援してくださる、賛助会員を募集しています。沖縄県国際交流・人材育成財団の事業は会員の皆さまの支援によって支えられています。皆様のご協力をお願いいたします。

【年会費】個人：3,000円 団体：10,000円

★お申し込み・お問い合わせは国際交流課まで★  
TEL:098-942-9215 FAX:098-942-9220  
E-mail:[kokusai@oihf.or.jp](mailto:kokusai@oihf.or.jp)

